



今回のこの欄に登場するのは、あなたかも？  
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください  
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)



▲表彰式会場に掲示された作品の前の常陸宮殿下(右から2人目)と松本さん



◀自宅で作品を制作する松本さん

## 「コンピューターアートで、いつか個展を開きたい」

松本 崇さん(西今町)

私は筋ジストロフィー症という、筋力が衰えていく病気のため、電動車いすや、人工呼吸器の助けを借りて生活しています。

コンピューターアートは、高校1年生のときに、担任の先生の薦めで始めました。昨年は「第22回肢体不自由児・者の美術展」において、私自身、3回目の特賞を受賞することができました。移動はもとより、手を持ち上げることにも困難な私にとって、パソコンを使ってイラストを描くことは、自分の世界を広げ、自分を自由に表現できる大きな手段です。また、最近では、自分のことを、もっと多くの人に知ってもらうために、ホームページも作りました。

現在は、自宅で作品の制作を続けると同時に、「情報共同作業所アイ・コラボレーション多賀事務所」にも所属して、毎日さまざまなイラストを描いています。作製したイラストは、彦根市の「障害者福祉計画」の表紙などに使ってもらっています。どんなデザインにするか、アイデアを出すところではいつも苦労しますが、試行錯誤を繰り返しながら、作品を作り上げていくことはけっこう楽しいものです。

始めてから約6年がたち、描いた作品数も50点を超えました。将来は彦根で自分の個展を開くことが今の僕の夢です。そのためにも、見る人を楽しくさせるような作品を、これからも描いて行きたいと思っています。

松本さんのホームページ  
<http://homepage3.nifty.com/tanukiinu94/>

## 「新しいスタート 成人の日を迎えて」

米倉千晴さん(長曾根南町)

20歳を迎えた今年、なにかをやってみたくて、私は「新成人のつどい」の実行委員になりました。学校の関係で、現在県外に住んでいる私にとって、実行委員会の日は、授業が終わると電車で飛び乗り、彦根で夜の会議に参加し、翌朝一番の電車に乗るといったハードなスケジュールでした。

実行委員会では、初めはお互いのこともよく知らなかったのですが、自分たちの「新成人のつどい」をいっしょにしようと、団結し、行事を成功させたみんなのエネルギーとチームワークに感動しました。今年初めて企画し、多くの皆さんからいただいた新成人へのメッセージも、実行委員の中から生まれたアイデアでした。

当日、私は新成人を代表して「新成人の言葉」を述べました。本番が迫るに連れ、緊張が高まりましたが、会場の大勢の仲間を支えられ、自分の思いをしっかりと伝えることができました。

私自身、まだ、20歳になったことで何かが変わったという実感はありません。ただ、私は学校を卒業したら彦根に帰ってきて、小学校の教師になりたいと思っています。彦根を離れて、改めて、彦根の自然の美しさや、人の温かさに気づいたからです。

「彦根に生まれ育ったものとして、これからは彦根の未来に貢献できる大人になりたい。」それが成人の日を迎えた私の決意です。

▶新成人の言葉を読む米倉さん



◀「新成人のつどい」会場で、友人とメッセージを見る米倉さん(右から2人目)

